

29S-pm15

英語研究論文のムーブ分析：薬学における ESP を目指して

○野口 ジュディー津多江¹, スミス 朋子²(¹武庫川女大薬, ²大阪薬大)

【背景】近年、グローバル化が加速する日本社会の中で、薬学教育の国際化は他分野よりも遅れているのが現状である。一般的な英語教科書はエッセータイプの読み物が中心であり、薬学の世界で実際に必要となる論文等が用いられているケースは少ない。6年制となったとはいえ、大学時代の限られた教育期間内でプロとして活躍できる基礎英語力を養成するためには、専門英語教育 (ESP) のアプローチが有効であると考ええる。本研究では、英語教員・言語学者の立場から研究論文の言語特徴の分析を試み、どのような特徴を教えるべきか考察する。

【方法】生物系の学術雑誌から、Summary, Introduction, Experimental Procedures, Results, Discussion を含む 5 つの論文を選択し、コンコーダンスソフトを用いて論文に頻繁に用いられる語句の分析を行った。さらに、約 300 の動詞を抜粋し、時制の用法等、動詞を含む文や節が示す言語特徴を詳細に分析した。また、ムーブ (論の流れをつくるための特定の情報のまとめ) の流れと、各ムーブに現れる言語特徴を分析した。

【結果】当該論文に見られる言語特徴に、一定のパターンがあることを確認した。頻出主語として “we” を分析した結果、5 つの論文中 146 の用例があったが、Experimental Procedures セクションでの出現は非常に少ないことが分かった。また、ムーブについても、5 つの論文で同じような種類と情報の流れが観察された。指導すべきムーブの種類は、基本的な専門知識の理解を促すよう細分化せず数を限定したものを提案する。難解である研究論文であっても、パターン化した言語特徴に注目させ、ジャンルのとらえ方を理解することを指導すれば自立した学習者を育成できると考える。